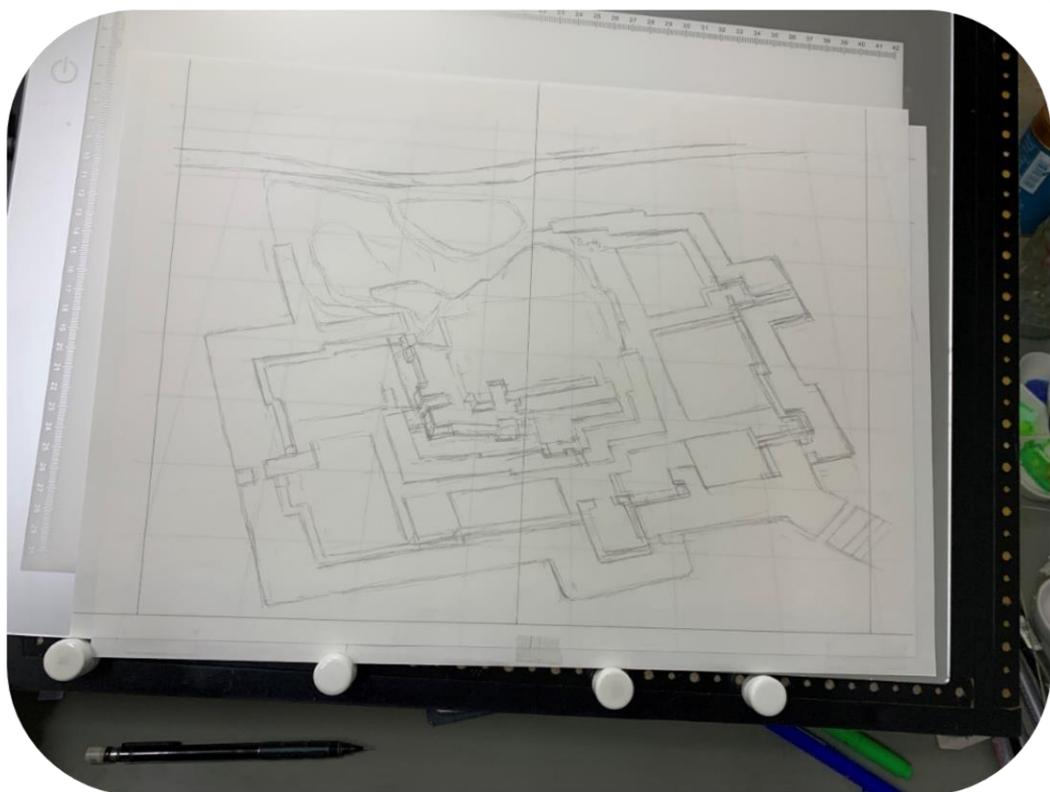


①

地形図と縄張り図に碁盤目を描く。

(今回は1辺100m)

下絵の補助用紙に、斜めに見下ろした碁盤目を描く。



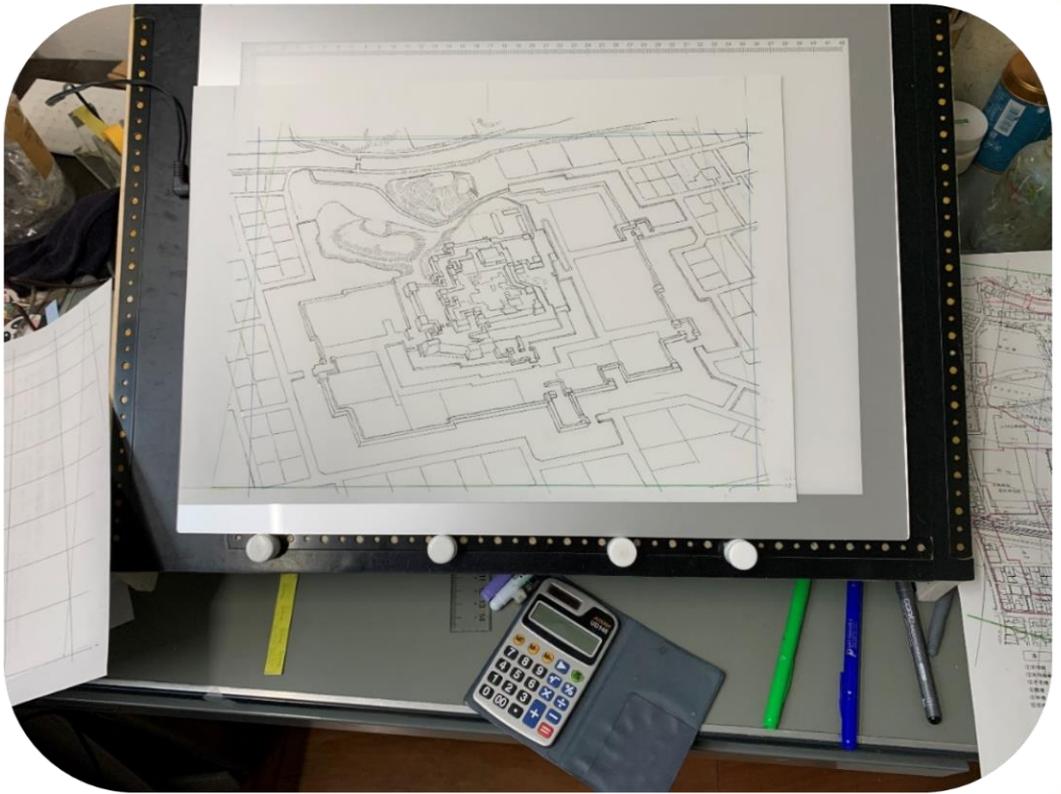
②

ライトテーブルの上で、下絵の紙の下に補助用紙を敷いて、碁盤目を透かせる。碁盤目を頼りに、縄張り図の郭の形を鉛筆で描き写していく。



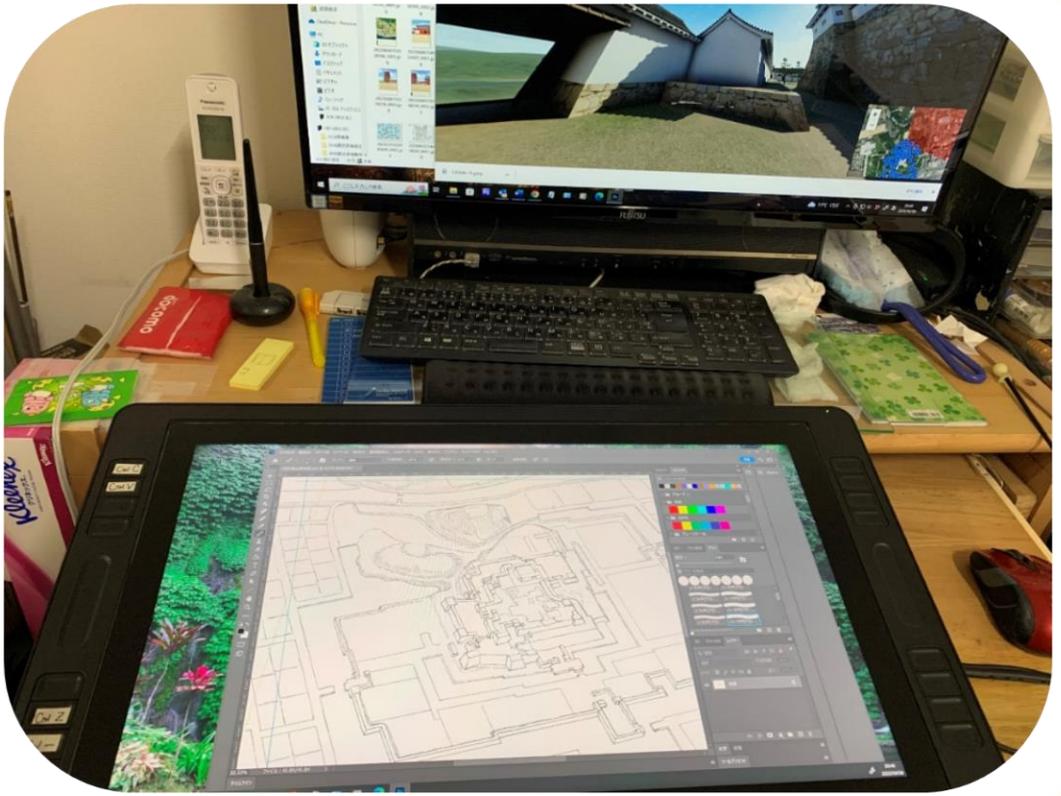
③

周りより高い本丸などを描く時は、その高さのぶんだけ補助用紙を上にはずらして、曲輪の形を描き写す。鉛筆で形が取れたら、ペンで決めの線を描く。

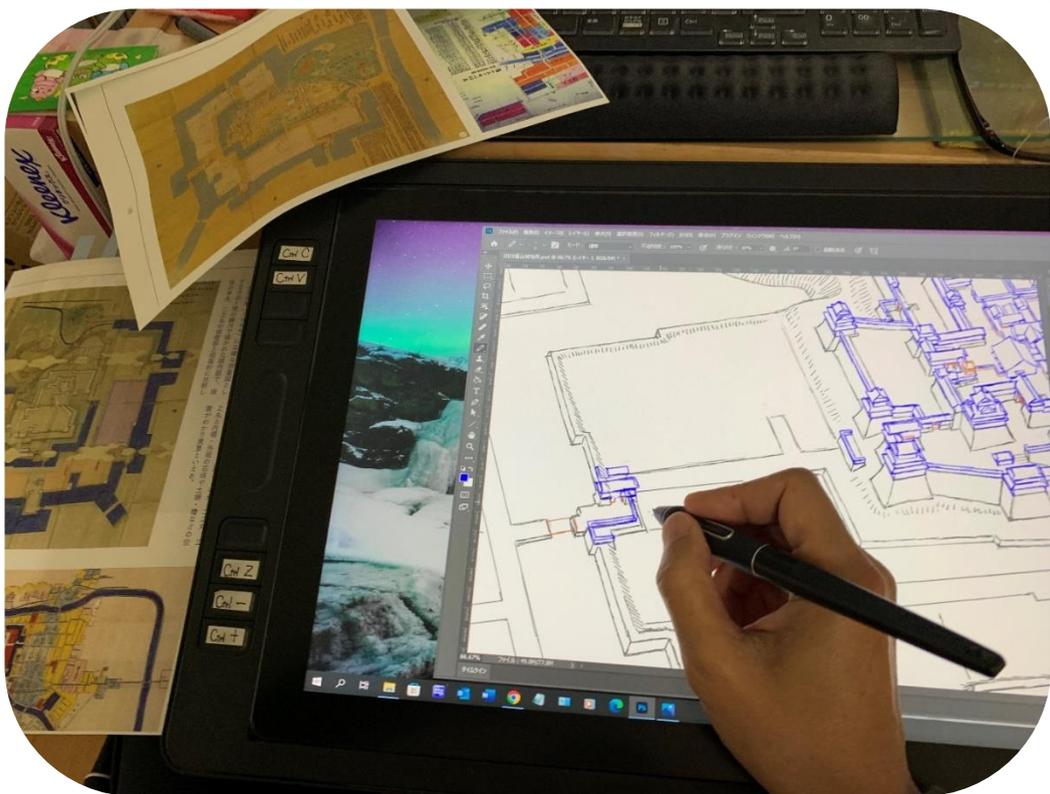


④

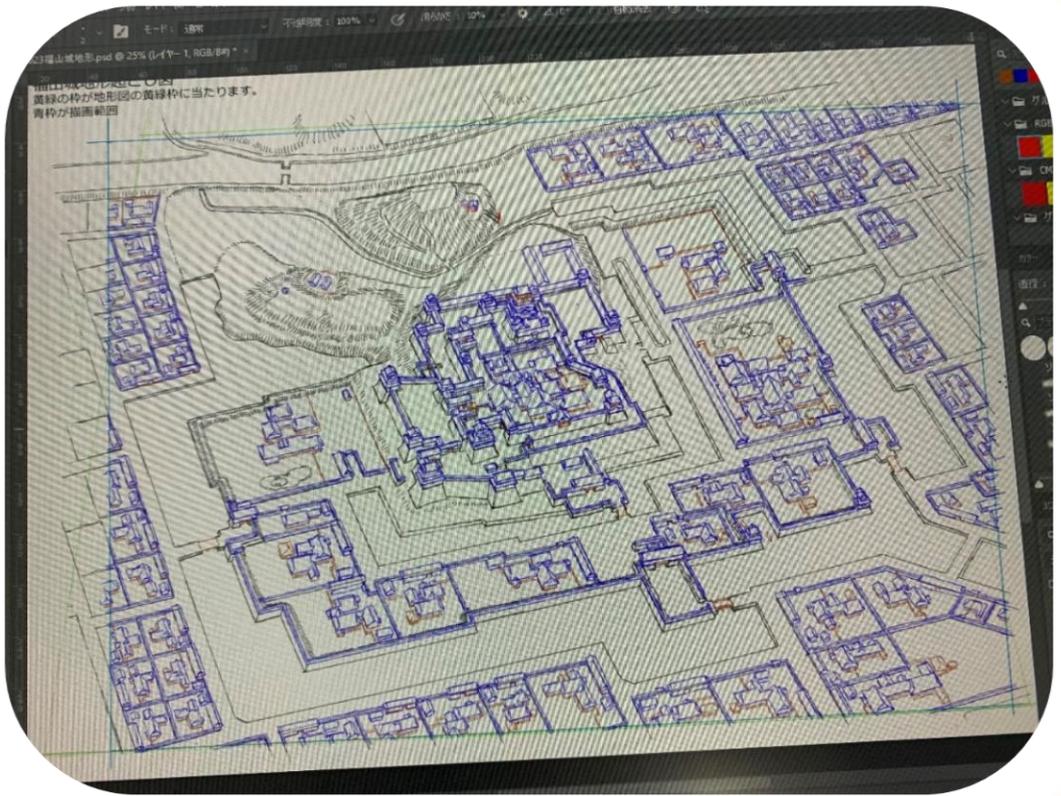
地形、石垣の形が完成。  
スキャンしてデジタル画像にする。



⑤  
全体感が重要な地形は手描きで起こしているが、ここからはペンタブレットで描く。



⑥  
建物は描き直すことも多い。デジタルの  
ほうが、修正が容易。

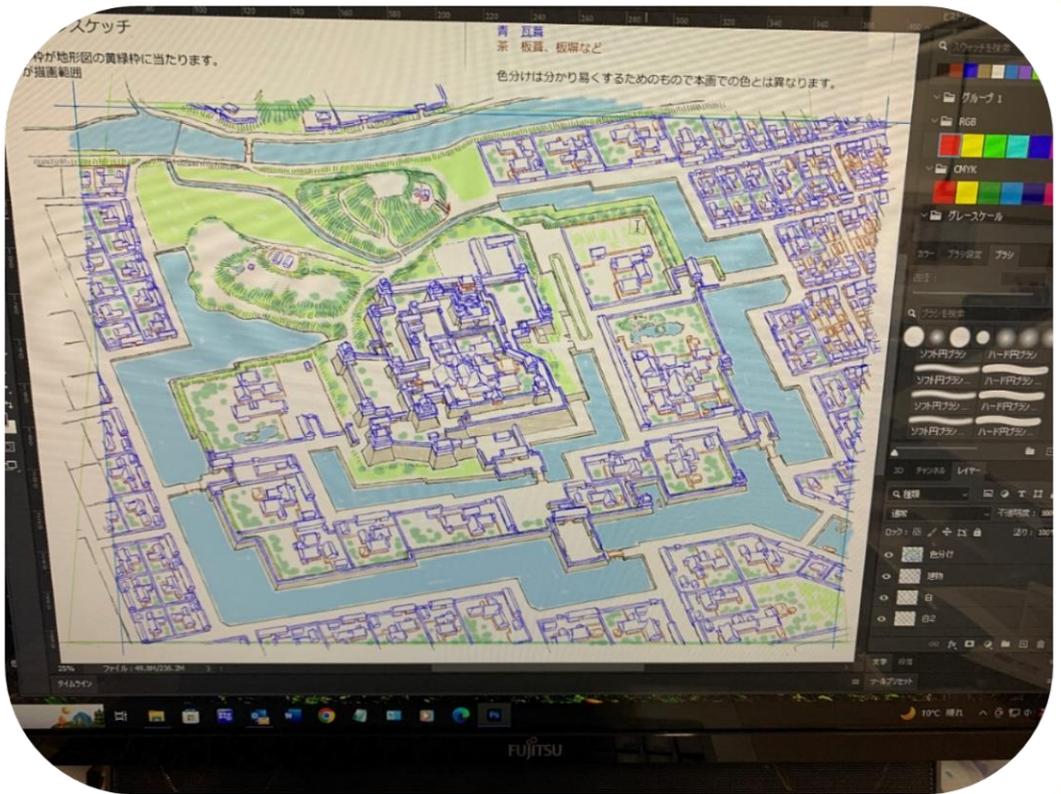


⑦

建物描き終わり。

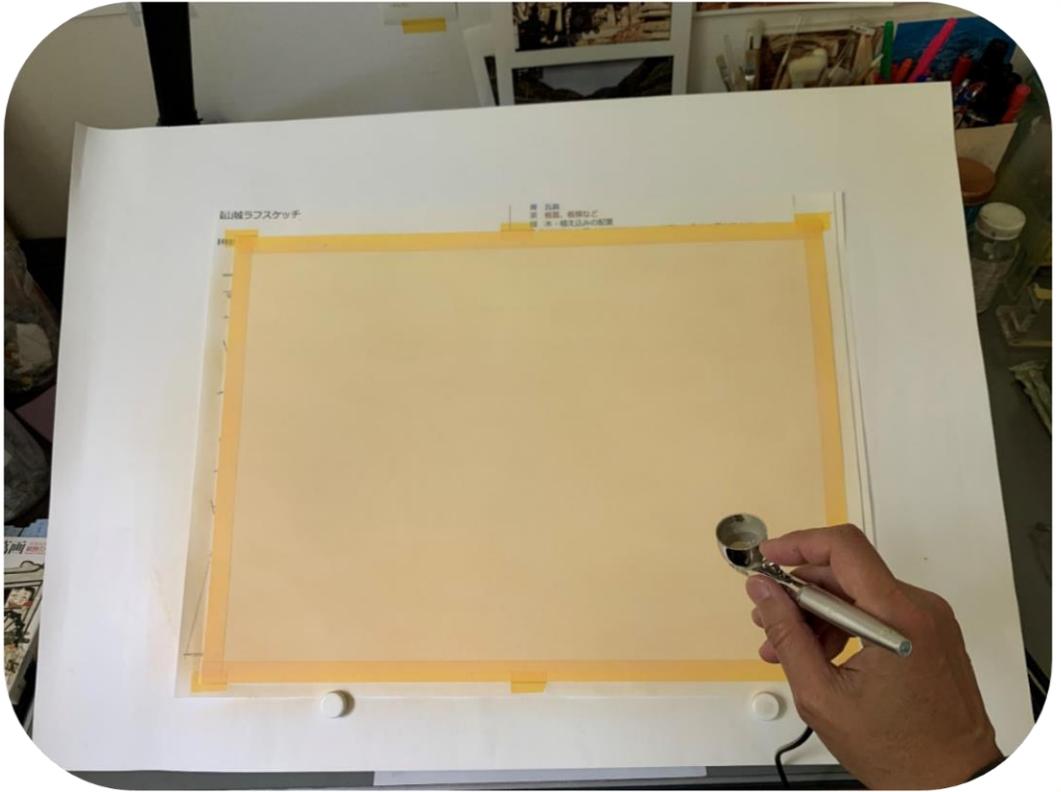
かわらぶき    いたぶき

瓦葺と板葺で色分けしている。



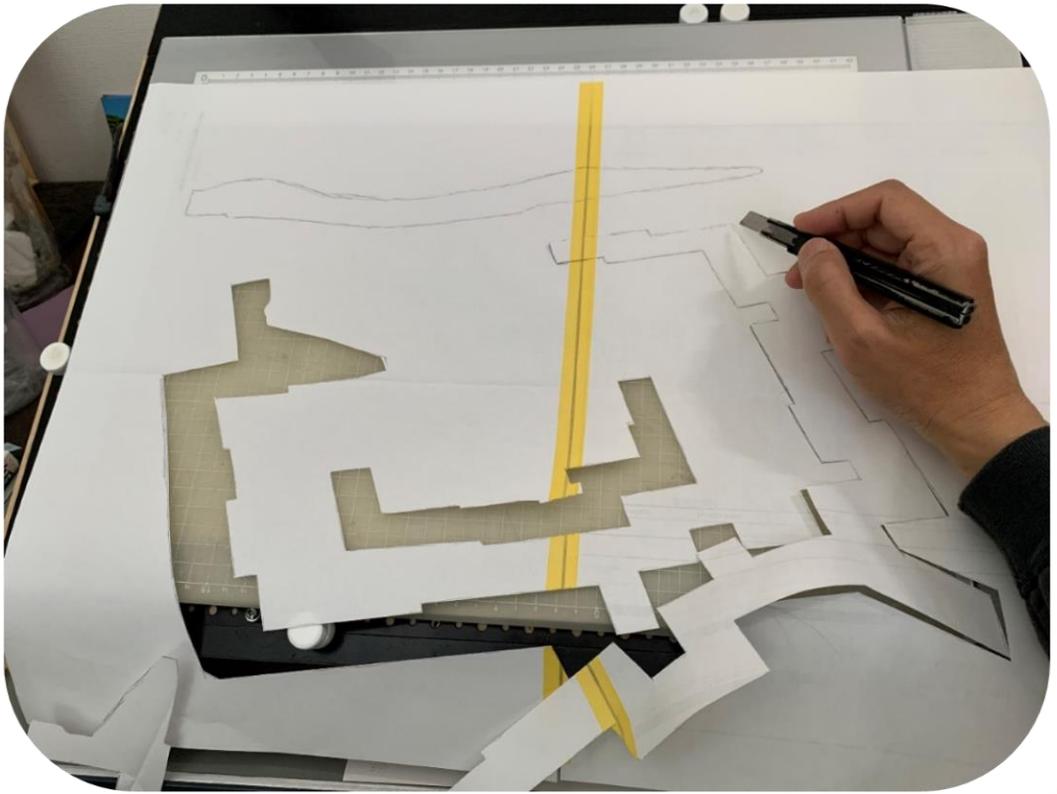
⑧

水や草木も簡単に色分けして、下絵が完成。これをメールで送って監修を受け、指示によって修正。OKを頂いてから本画制作に入る。



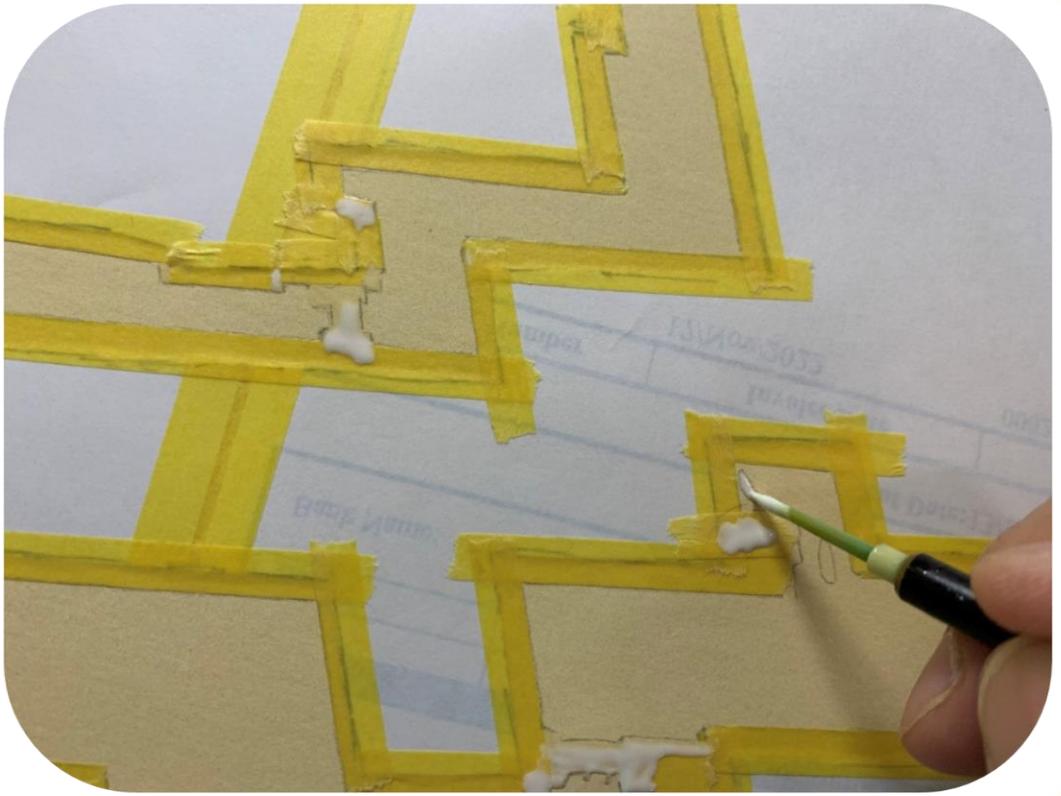
⑨

本画用紙にマスキングテープで枠取りをし、エアブラシで地面の色を塗る。



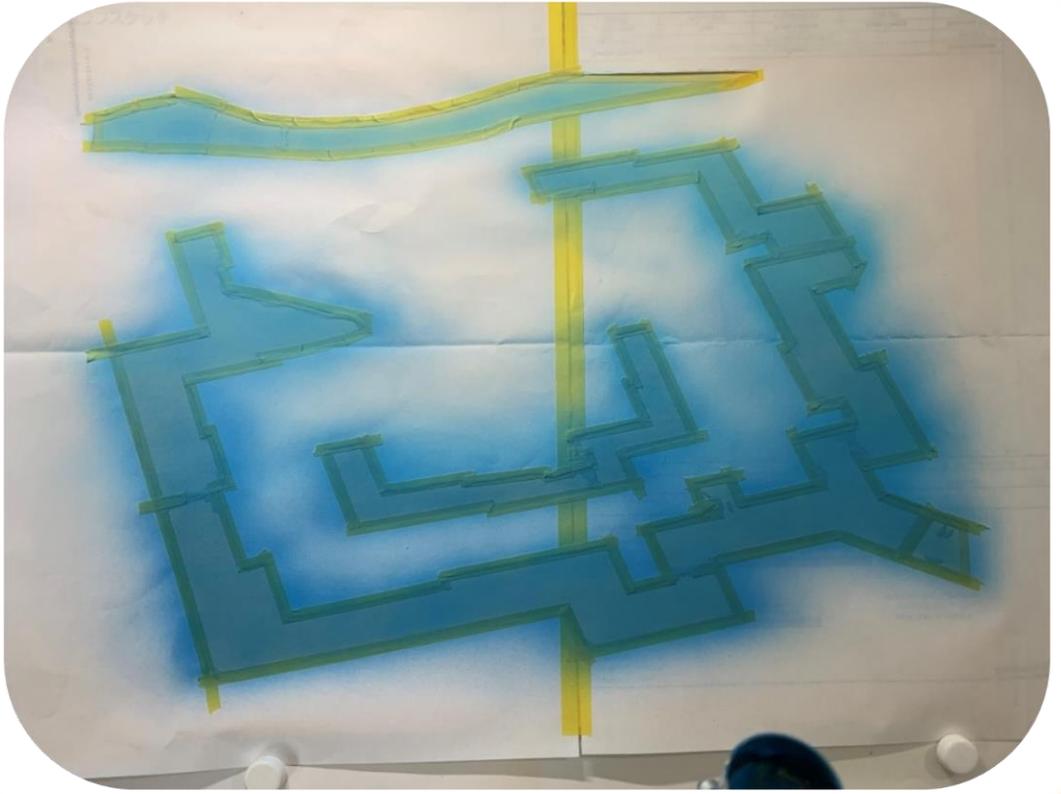
⑩

今回は水堀や川の面積が多いので、水をエアブラシで塗ることにした。紙を切って、水以外の部分を覆うためのマスクを作る。



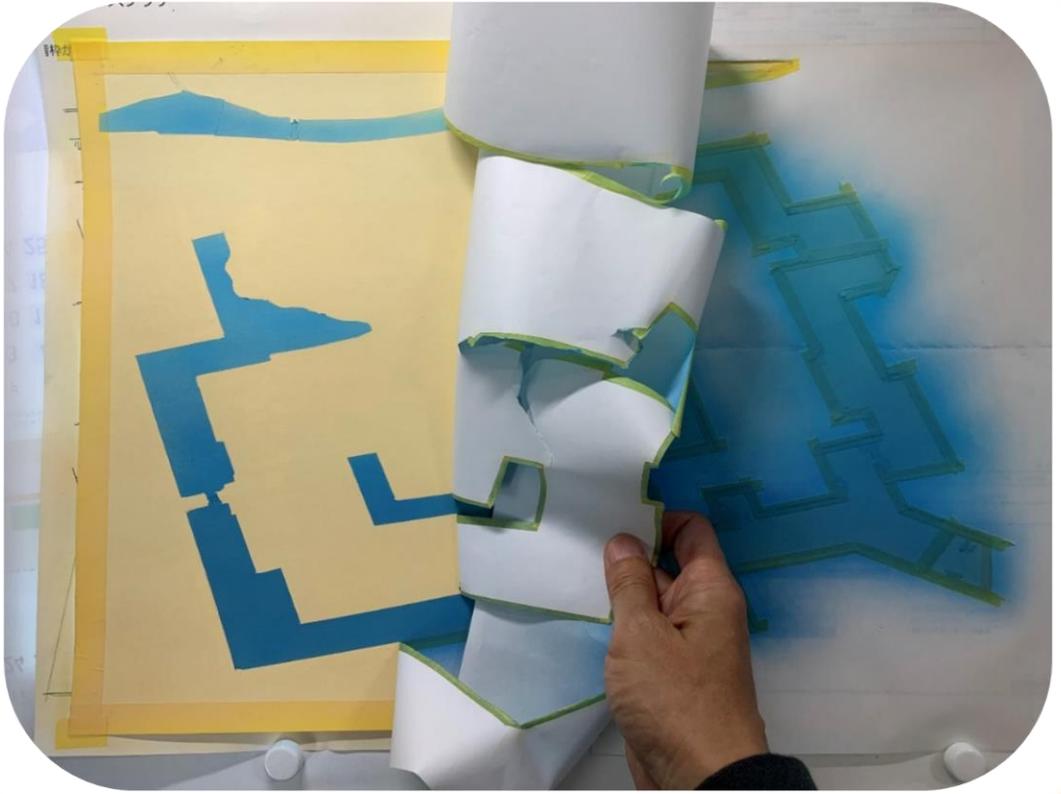
⑪

本画用紙に紙のマスクを被せ、マスキングテープで貼っていく。細かい形はマスキング液で作る。



⑫

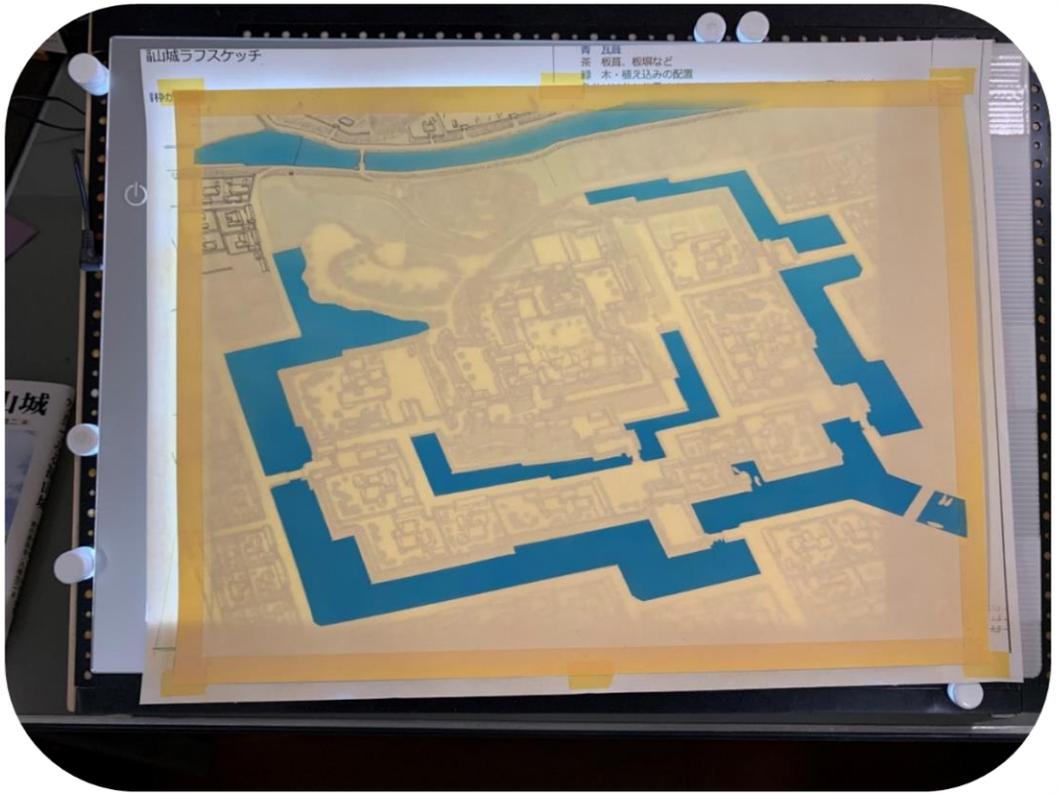
マスキングが終わった本画用紙に、エア  
ブラシで水の色を吹き付ける。



⑬

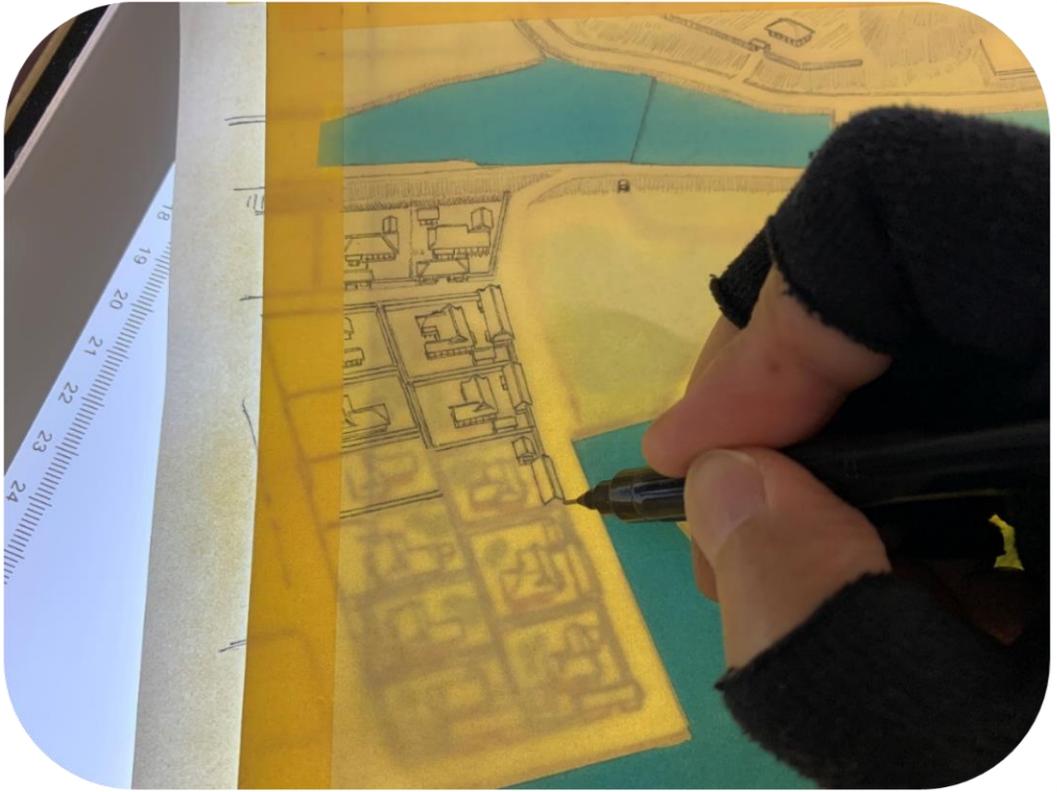
マスキングをはがす。

下塗りが終り、次は線描きに入る。



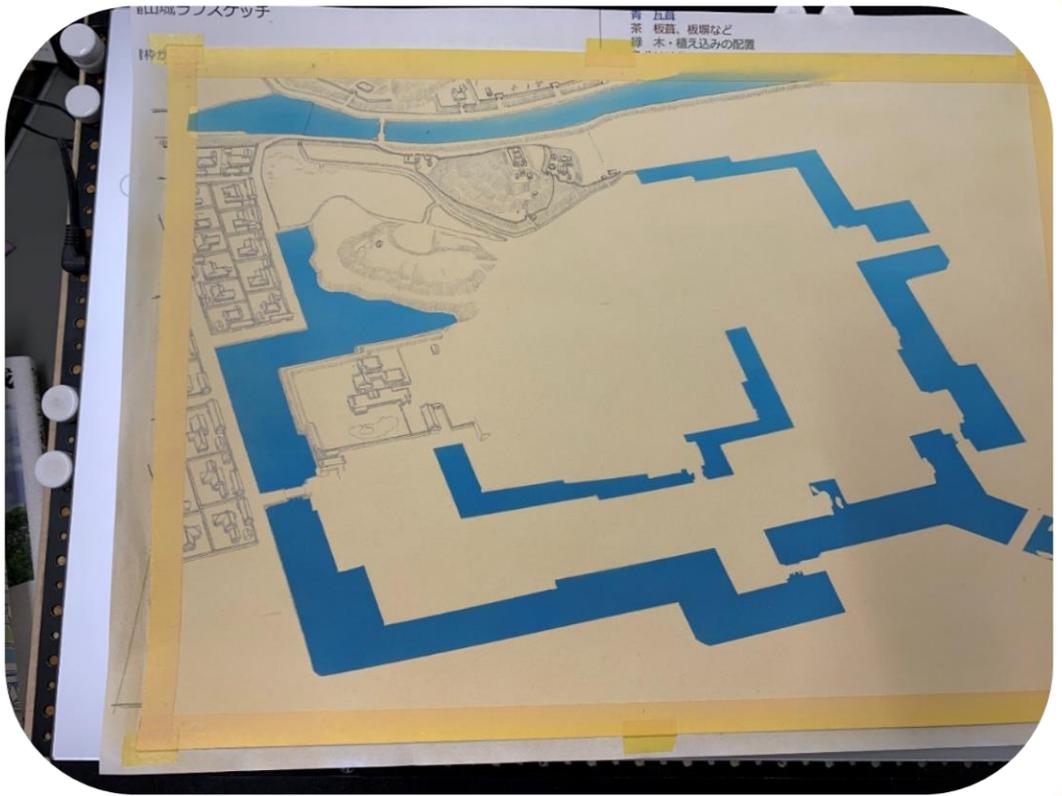
⑭

本画用紙の裏に下絵の紙を貼って、ライトテーブルで透かして見ながら線描き開始。



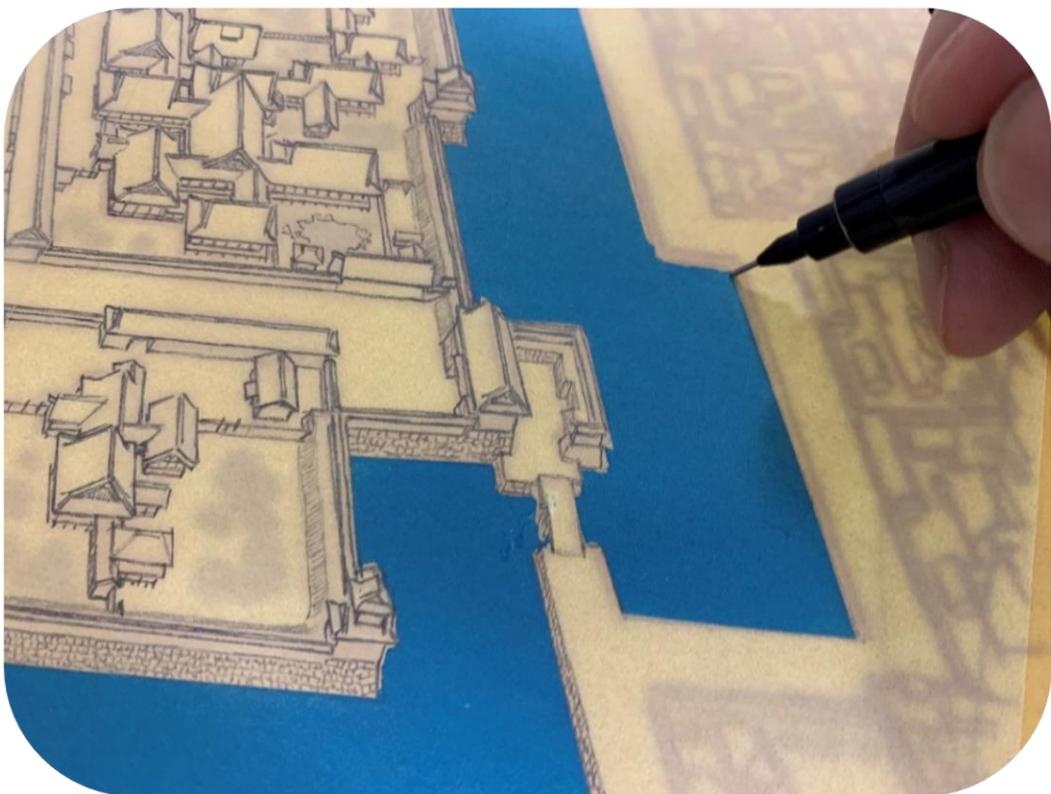
⑮

線描きは、主にシャープペンシル。  
4 HからHBまでの芯を使い分けて、  
線に強弱をつけている。



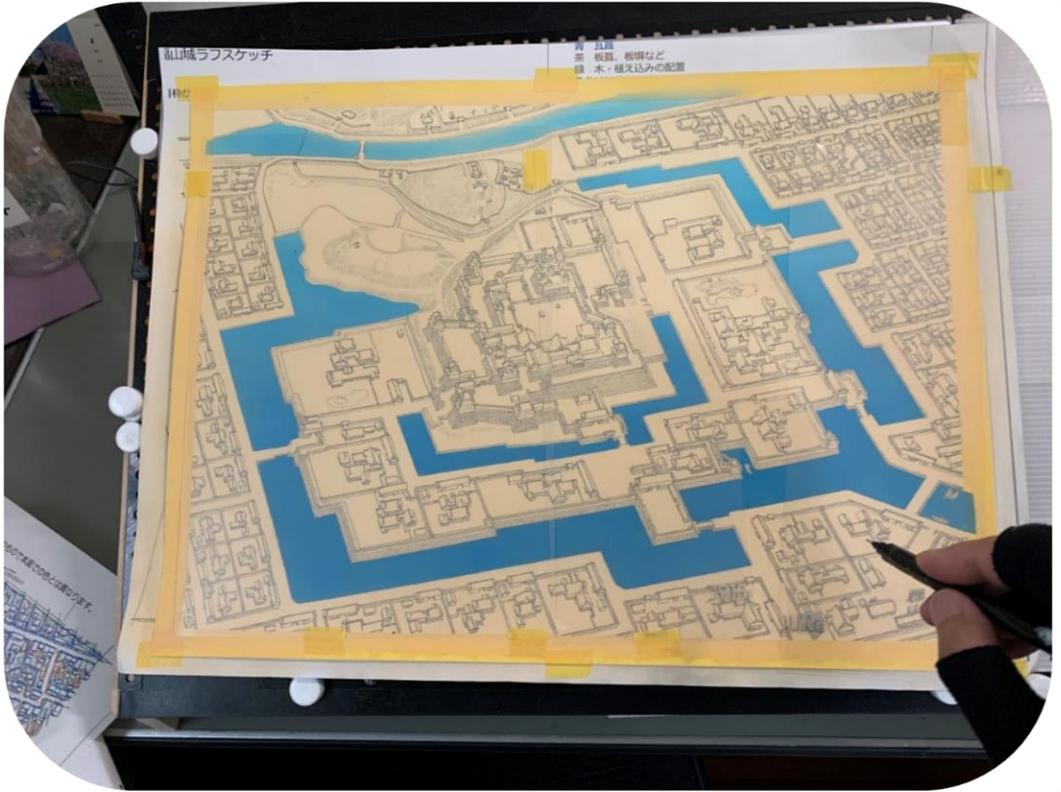
⑩

ライトテーブルのライトを消した状態。  
左上から右下に向かって作業を進めている。



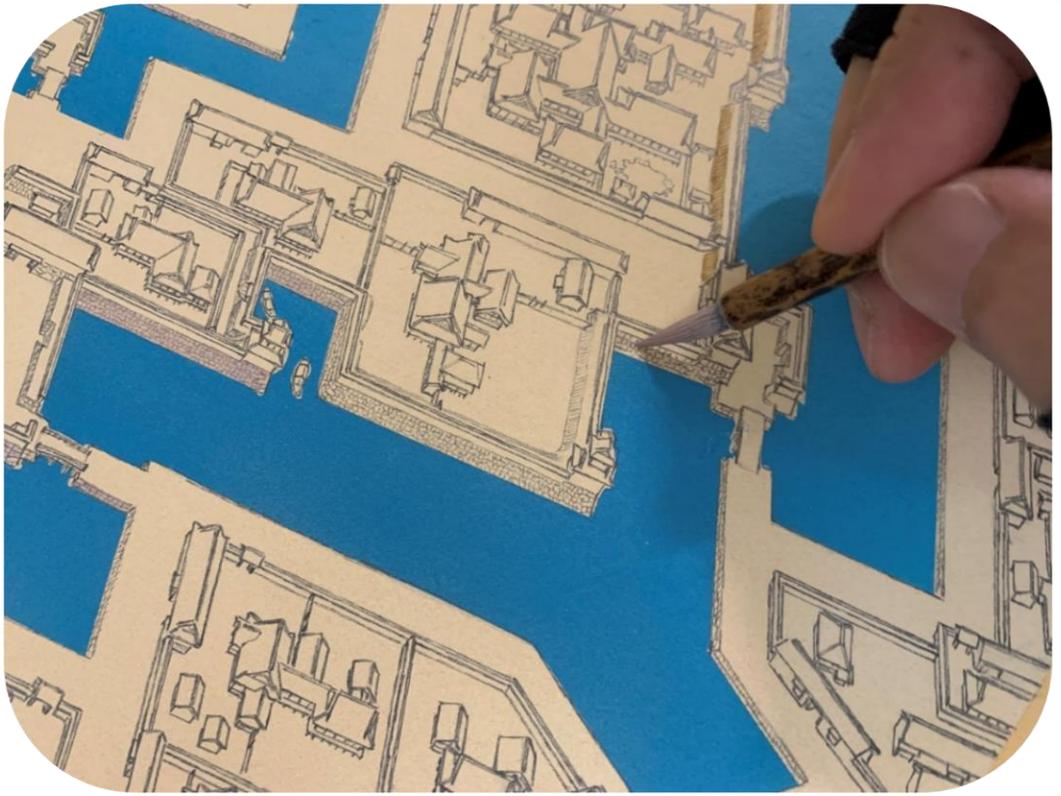
⑰

右下まで線描きが進んだ状態。



⑱

線画が終了。



①9

絵具（アクリルガッシュ）を使って色を入れる。



⑳

石垣や建物の着色が終了。



②

木や草を着色。  
庭などの細かい部分も描く。



②

ひとつおりの色を入れたら、影を描く。  
立体感を感じさせるためには、影が大変重要。



②③

仕上げに線を入れ直す。特に黒くしたい  
瓦の軒先にはペンで線を入れる。



②④

完成！

最後に枠取りのテープをはがす。